

広い大きな大きな空 ふるさと 府中

～50年後の未来の子ども達が誇りに思えるふるさとを目指して～

道に迷ったときや疲れたとき いつも助けてくれたのは
府中の果てしなく続く広い大きな空でした。
俺にとっては、いつでも帰れる場所 そんな特別な場所。
50歳を過ぎて立ち止まったとき ふと考えたんです。

これからの限りある人生。どう歩いていくのか。

その中でも、この地に生まれ、育ち、両親と家族、仲間達の愛を沢山もらい沢山の冒険をした府中。
この場所に恩返しをしたいという思いでした。
今、改めて原点に戻ってみると沢山の歴史や伝承で溢れていてロマンが沢山 (笑)
そんな場所で育ったんだなと誇りに思います。
今出来ることは、先人に残して頂いた歴史をそして伝承を、50年後の未来の子ども達が
誇りに思えるふるさとになるよう繋いでいく。
育ててくれたふるさとへ、微力ながら恩返しができると思っています。

文化が生まれた場所に 府中ロマン

～文豪や首相 著名人が数多く訪れた場所 そんな歴史に触れたい～

Q. 今、森友さんが思い描いているふるさとのカタチとは？

府中には、遠い昔から文化人や首相が訪れていた歴史がある。
そんな文豪や著名人がこよなく愛した場所が点在していると思うんだよ。

この地になぜ訪れていたのか？興味がわからない？ (笑)

そこが、府中ロマンの軸かな。国府がこの地にあったことだったり、新しいものを
創り上げる訳ではなく、歴史を繋ぐ。それが府中の魅力に繋がっていくと思う。
先人が残したかった思い。そこに触れることで、ココロが豊かになる時代に向けて
はじまる気がしてる。そんなはじまりの場所であってほしい。
そして、おじいちゃんやおばあちゃんの知っている府中の歴史に沢山触れてほしい。
そこにはきっと沢山のロマンが溢れていると思うよ。
そんな世代を越えてみんなで創るふるさとを目指したいね。

T-BOCAN 森友嵐士

ふるさと 府中市を 想うキモチ

6月6日、市役所で委嘱式が行われた。森友嵐士さんが「府中ロマン親善大使」に就任した瞬間だ。ロックバンドT-BOCANとしても、ソロとしても活動し、その活動の範囲は音楽に限らず、町おこしや災害復興支援、そして、稲作と多岐にわたる。

高校卒業までを府中市で過ごし、上京後は第一線で長年活躍する、スーパースターの一人となった。しかし、その華やかな経歴の中で、病気により歌いたくても歌えない時期が長く続き、そのときふと気付くと、故郷「府中市」を思い、よく

帰ってきていた。「府中市があったからこそ、また歌うことができるようになった」と、森友さんは言う。故郷「府中市」を熱く想う森友嵐士さんにしかできない活動がこれから始まる。



森友嵐士さんProfile

1965年生まれ府中市出身。1991年「悲しみが痛いよ」でメジャーデビュー。代表曲は「離したくない」「Bye For Now」「マリア」など。2009年11月ソロで音楽活動を再開。比叡山親善大使、墨象家としても活躍している。